

自主防災組織のための

「地区タイムライン（防災行動計画）」

作成の手引き



令和5年3月

大分県生活環境部防災局防災対策企画課

はじめに

近年、全国各地で災害が激甚化・頻発化しています。本県も「令和2年7月豪雨」において、日田市、由布市等を中心に県内各地で大雨となり、死傷者や建物損壊など大きな被害が発生しました。

災害への対策を考えると「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。その中でも、自分の命は自分で守る「自助」、地域住民が協力して助け合う「共助」が、防災・減災の要といえます。

大雨や土砂災害、台風等の自然災害への備えとして、災害を知ること、住んでいる所のリスクを把握しておくこと、避難するタイミングを決めておくこと、訓練することなど、日頃から防災について考え、話し合い、活動しておくことが重要です。

地区タイムラインである「おおいたユイ（結）・タイムライン」は、災害発生前後における自主防災組織などの活動を、地域の皆さんがあらかじめ考え、話し合い、時系列に整理しておく地区の防災行動計画です。

県では、令和4年度に地区タイムラインモデル検証事業として、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター、NPO法人リエラと連携し、県内3地区（日田市吹上地区、臼杵市目明地区、由布市湯平地区）において、タイムラインを活用した避難訓練を実施することにより、作成方法や様式に関する検証を行いました。

本書では、モデル地区での検証を踏まえ、おおいたユイ（結）・タイムラインの作成ポイントを掲載するほか、各地区の取組を紹介します。自主防災組織や防災士の皆さんにご一読いただき、おおいたユイ（結）・タイムラインづくりの参考としていただければ幸いです。

手引書

1 事前準備 災害とタイムラインを知る	P1 - P6
2 おおいたユイ（結）・タイムラインの作成	P7 - P10
3 タイムラインモデル事例と訓練	P11 - P13
4 訓練による検証とタイムラインの見直し	P14 - P16

用語集

要配慮者	災害が発生した時に特に配慮が必要な方 具体的には、高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、傷病者、難病患者、外国人など	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">災害時要配慮者</p><p style="text-align: center;">高齢者 妊産婦 外国人 障がい者 乳幼児</p></div>
避難行動要支援者	要配慮者のうち、自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を必要とする方	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">避難行動要支援者</p><p>例</p><ul style="list-style-type: none">・要介護3以上の方・療養手帳A・身体障害者手帳1級、2級・指定難病・精神障害手帳1級など</div>
個別避難計画	避難行動要支援者について、誰が支援するか、どこにどのように避難するか、避難するときの配慮などを、あらかじめ整理した計画	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p style="text-align: center;">個別避難計画の作成努力義務</p><p>令和元年台風第19号等の近年の災害において、多くの高齢者や障がい者などが被害に遭われた。令和3年の災害対策基本法の改正により、避難行動要支援者について、個別避難計画を作成することが市町村の努力義務とされた。</p></div>
防災まち歩き	安全な避難や適切な防災活動のため、自分たちが住む地域の災害危険箇所や防災設備などを確認しながら歩くこと	

1 事前準備 災害とタイムラインを知る

「頻発化・激甚化する近年の災害」

気象庁によると、日本の大雨の年間発生回数は増加しており、強い雨ほど増加率が大きくなっています。1 時間降水量 80mm 以上、3 時間降水量 150mm 以上、日降水量 300mm 以上などの大雨の発生回数は、1980 年頃と比較して、おおむね 2 倍程度に増加しています。

大分県内でも、同様の傾向にあり、大雨による災害が毎年のように発生しています。人命を守り、被害を最小限にするために、平時の備えが重要です。



(資料提供：大分地方気象台)

■ 参考 近年の大分県の大雨による被害



(写真提供：中津市)

平成 24 年 7 月九州北部豪雨 **大雨** **洪水**

人的被害

- ・死者 3 人
- ・行方不明者 1 人
- ・負傷者重傷 1 人
- ・負傷者軽傷 4 人

住家被害

- ・全壊 36 棟
- ・半壊 578 棟
- ・一部損壊 21 棟
- ・床上浸水 556 棟
- ・床下浸水 381 棟



(写真提供：日田市)

平成 29 年 7 月九州北部豪雨 **大雨** **洪水** **土石流** **斜面崩壊**

人的被害

- ・死者 3 人
- ・負傷者重傷 1 人
- ・負傷者軽傷 3 人

住家被害

- ・全壊 49 棟
- ・半壊 274 棟
- ・一部損壊 5 棟
- ・床上浸水 159 棟
- ・床下浸水 888 棟



(写真提供：由布市)

令和 2 年 7 月豪雨 **大雨** **洪水** **土石流** **斜面崩壊** **地すべり**

人的被害

- ・死者 6 人
- ・負傷者重傷 1 人
- ・負傷者軽傷 2 人

住家被害

- ・全壊 69 棟
- ・半壊 209 棟
- ・一部損壊 214 棟
- ・床上浸水 129 棟
- ・床下浸水 469 棟

(出典：大分県災害データアーカイブ、大分県災害年報)

■ タイムライン（防災行動計画）とその目的

タイムラインとは 「災害時の行動を時系列に整理した『防災行動計画』のこと」

目的 自助の知識・意識の向上と避難誘導など共助による防災体制づくり

地域でタイムラインを作る過程が重要

地域住民や自主防災組織が、防災について話し合い、行動を時系列に整理することにより、住民一人ひとりの「自らの命は自らが守る」という自助の知識と意識が向上されるとともに、地域において互いに声を掛け合い、助け合う共助の体制が整備されます。

事例紹介



日田市社会福祉協議会中津江支所
日田市中津江高齢者生活福祉
センター「安寿苑」

支所長兼施設長

中塚 能馬 氏

(肩書きは災害当時のものを記載)



(写真提供：日田市社会福祉協議会)

避難を習慣化し、災害発生時に犠牲者0

日田市中津江村 令和2年7月豪雨

Q. 災害当時の行動を教えてください。

災害発生前日の朝、尋常ではない雨の降り方だったため、デイサービスを中止。避難の準備を始め、警戒レベル3のタイミングで、70～90代の入所者3人と職員2人は避難所に避難した。その後に、土砂災害による建物被害が発生したが、人的被害はゼロであった。

Q. 災害前はどんな取り組みをしていましたか？

平成24年九州北部豪雨の後、避難計画をつくり、警戒レベル3の発令で避難することを習慣化していた。

Q. 災害を経験し、伝えたいことはありますか？

- ・自主防災組織で、情報伝達と要配慮者避難の班を事前に決めておくこと
- ・日頃からハザードマップを確認しておくこと
- ・複数の避難先として、避難所を3箇所まで決めておくこと

タイムラインの種類

大分県では、以下の3つのタイムラインの作成を推奨しています。

おおいたマイ・タイムライン

自分自身や家族の防災行動を時系列で整理する。

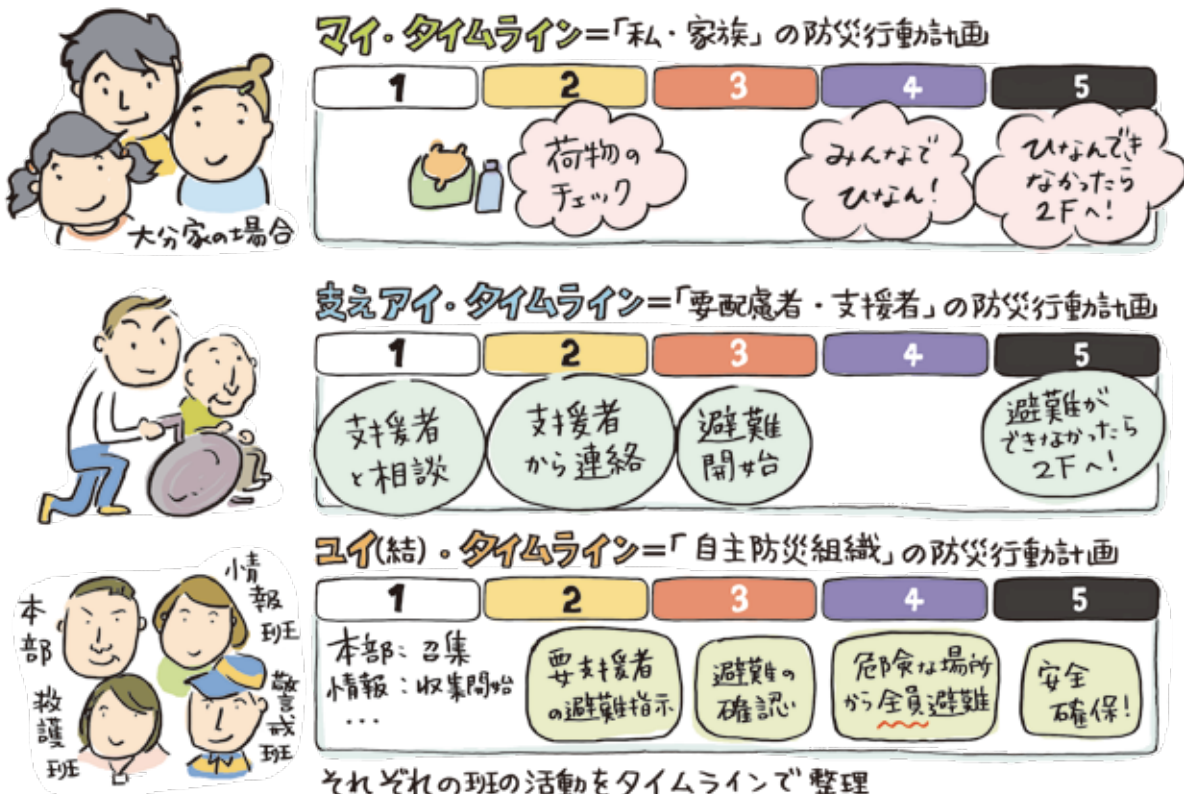
おおいた支えアイ・タイムライン

支援者の連絡先や要配慮者の心身の状態などを記載するとともに、要配慮者と支援者の防災行動を時系列に整理する。(個別避難計画の1つとみなす市町村もある)

おおいたユイ (結)・タイムライン

災害時に地域が行うべき活動を、本部や避難誘導班など役割分担しておき、その行動を時系列に整理する。

(イメージ図)



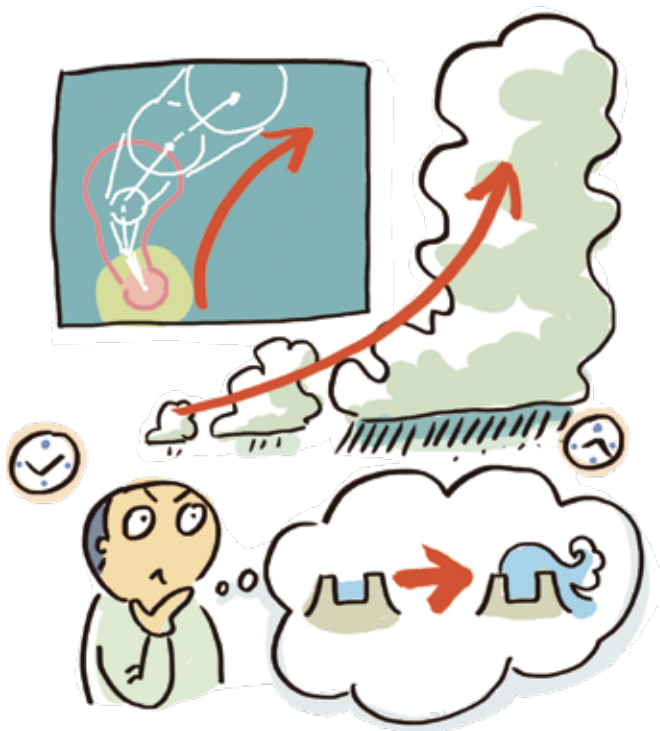
Point

おおいたユイ (結)・タイムラインに整理する地域の防災行動と、おおいた支えアイ・タイムラインや個別避難計画に整理する避難行動要支援者、支援者の避難行動を連動させることにより、災害時の避難支援を迅速かつ効果的に実施することができます。

タイムラインの対象とする災害

タイムラインの対象とする災害は、【※1 進行型災害】を基本としますが、【※2 突発型災害】を対象とすることもできます。突発型災害では、発生前に防災行動を起こすことは困難ですが、例えば、地震発生後の人命救助の際に重要な「72 時間」を意識して、その間に何をしなければならないか検討する等、発生後の行動をタイムラインとして整理する事例もあります。タイムラインは災害発生後の対応でも有効な手段の一つとなります。

※1 進行型災害



洪水や台風など、発生やその被災状況が一定程度予測できる災害

※2 突発型災害



地震や噴火など、発生の予測が困難な災害

■ 様式のダウンロード先

3つのタイムラインの様式は右のQRコードもしくは下記のキーワードで検索して様式をダウンロードしてください。

大分 タイムライン

検索



避難スイッチを考えよう

タイムラインでは、警戒レベルを時系列の軸としていますが、市町村長から発令される避難情報を待つことなく、早めの避難行動が必要なケースもあります。災害が発生しそうなときに逃げるタイミングを判断する独自の基準を「避難スイッチ」とすることも考える必要があります。避難スイッチを考えることで、自分で判断する力を養うことができます。

避難スイッチで
必ず避難

警戒レベルと
独自の基準

■ 警戒レベル

住民がとるべき行動を直感的に理解できるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されます。なお、警戒レベル1・2は気象庁が発表し、警戒レベル3・4・5は市町村長が発令します。

	住民がとるべき行動	避難情報 (市町村長が発令)	警戒レベル相当情報 (気象庁等が発表)
警戒レベル5	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保	大雨特別警報 氾濫発生情報 高潮氾濫発生情報 キキクル「災害切迫」(黒)
警戒レベル4	危険な場所から 全員避難	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報 高潮特別警報、高潮警報 キキクル「危険」(紫)
警戒レベル3	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報 キキクル「警戒」(赤)
警戒レベル2	避難行動の確認		大雨・洪水・高潮注意報 氾濫注意情報 キキクル「注意」(黄)
警戒レベル1	心構えを高める		早期注意情報

■ 避難スイッチ

避難情報の発令前でも、避難スイッチに設定した情報・事象を確認したとき、あらかじめ決めておいた避難行動を開始します。避難スイッチを決めておくことで、スムーズな避難につながります。

避難スイッチの例		留意点
自分で得た情報（※）	避難情報や河川水位	「危ない」の感覚は、一人ひとり違うため、一定の基準をもとに判断することが重要です。
体感したこと（※）	自宅横の水路があふれた、山から濁った水が出ているなど、日常と異なる事象	過去の経験は判断基準となりますが、現在の気象状況は過去と異なるため、より早めの避難を心がけてください。
周囲からの声かけ（※）	家族・親戚や隣近所の方による避難の声かけ	避難の判断が難しい場合があります。過去の災害では、周囲からの声かけで避難した方もいます。周囲の方と避難の声を掛け合うよう繋がりを大事にしましょう。

（※矢守克也、2021）

事例紹介



大鶴防災士会
会長
藤井 隆幸氏



（藤井さんが目安にした川の岩）

避難スイッチの重要性

日田市上宮町 平成 29 年 7 月九州北部豪雨

Q. 災害当時の行動を教えてください。

上宮町自治会長だった私は、最新の気象データを確認しながら、放送端末を使って、住民に避難を呼びかけた。災害の危険性が高まる中、自宅の裏の川が増水し、岩が見えなくなったため、避難指示を待つことなく、住民に最後の放送を行い、自分も避難所に向かった。

Q. 何を避難スイッチにしていましたか？

日田市で大水害のあった昭和 28 年頃、祖父母から、「自宅裏の川の中の大きな岩が水で隠れたら危険な状態なので、避難した方がいい」と聞いていたこと。

Q. 災害を経験し、伝えたいことはありますか？

私は川の岩を目安に避難のタイミングを計った。避難スイッチを決めておくことで、避難の意識が高まるため実践してほしい。警戒レベルや雨量計、雨雲レーダーなど、気象情報の収集が重要になるため、どこでどの情報が得られるか事前に確認しておくことが重要。

2 おおいたユイ（結）・タイムラインの作成

おおいたユイ（結）・タイムライン（防災行動計画）は、自主防災組織が主体で作成するものです。組織内の役員や防災士などが集まり、みんなで話し合って作成しましょう。

タイムライン作成にあたっての準備物

① おおいたユイ（結）・タイムライン（様式）

② ハザードマップ（防災マップ）

対象となる災害（ハザード）

洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山噴火

記載情報

被害の予想範囲・程度

危険箇所

避難所・避難場所

避難路

防災関係機関（役所、消防、警察、病院等）の位置 など

ハザードマップを見るには

ハザードマップは市町村において作成・公表・配布しています。

各市町村が公表している情報は、国土地理院のポータルサイトで公開しています。

ハザードマップとは

自然災害が予測される区域や避難所・避難場所などの防災情報を地図上にまとめたもの

③ 筆記用具など

(1) 表紙を作成しよう 様式1

<p>〇〇〇〇（名称）防災行動計画</p> <hr/> <p>〇可能であれば、写真（画像）を貼り付けてください。</p> <p>※地域で観しみのある風景や建物などを写真を掲載すると、タイムラインがより身近なものとなります。</p> <hr/> <p>令和〇年〇月〇日（作成日を記入）</p> <p>〇〇〇〇〇〇（組織名を記入）</p>

おおいたユイ（結）・タイムラインの適用範囲は、自主防災組織単位とは限りません。必要に応じて、以下の範囲でも活用できます。

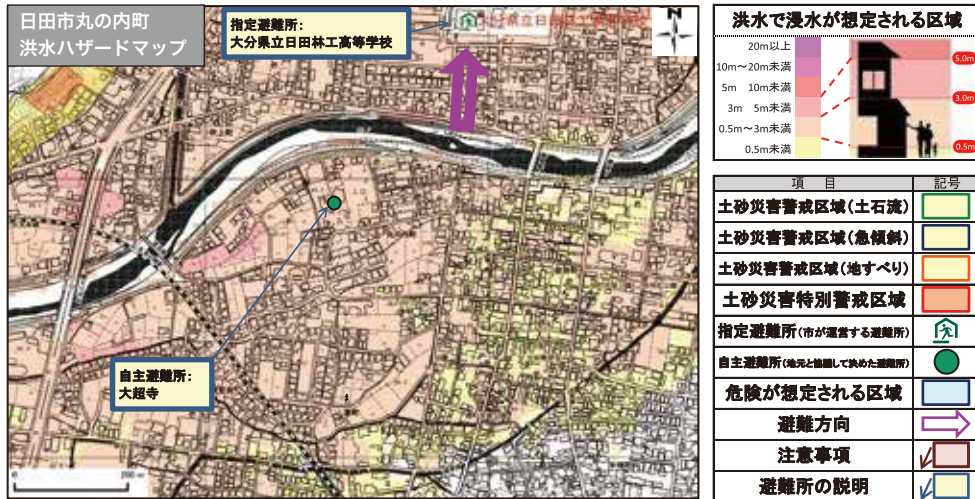
（例） 〇〇自治会、〇〇校区、〇〇小学校、
〇〇マンション、〇〇株式会社 など

すでに防災計画などを作成している場合、おおいたユイ（結）・タイムラインを一から作成する必要はありません。その計画が、現在の地域の状況（地域特性）や想定される災害（ハザード）にあっているか確認し、必要に応じて、おおいたユイ（結）・タイムラインの項目を追加してください。

Point

適用範囲 ▶ 必要に応じて、範囲を変更し活用できる

(2) 地域の災害リスクを把握しよう 様式2



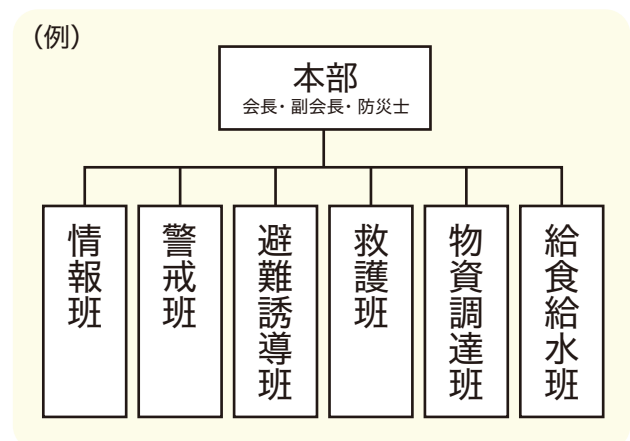
表紙で決めた適用範囲を含むハザードマップを貼り付けましょう。その際に、住んでいる地域でどのような災害が起こり得るか確認しましょう。防災まち歩き等を行い、地域の情報（よく冠水する場所、蓋のない側溝など注意すべき箇所など）を加えたオリジナルのハザードマップにすることで、住民の防災知識や意識をより高めることができます。

Point	ハザードマップの貼り付け ▶ 起こり得る災害の確認 防災まち歩きの実施 ▶ 地域内の注意すべき場所の確認 地域の情報を書き加える ▶ 住民の防災知識や意識の向上
-------	--

(3) 防災活動の体制を確認しよう 様式3

自主防災組織の組織図と活動内容の確認です。組織図がない場合は、記入例を追記や修正のうえ、作成してください。地域の実情に合わせて、班の統廃合や活動内容の見直し、機能する組織体制を考えましょう。

また、地区の居住者や近隣マンション、事業所、学校、消防団等との連携も検討してください。



Point	地域の実情に合わせて、班の統廃合や活動内容の見直し、機能する組織体制を考えましょう
-------	---

(4) 災害時の防災活動をタイムラインで整理しよう 様式4

タイムラインに
整理する際に

地域の実情に合わせて、できるところから埋めていきましょう

市町村の動き

自治体の動きを確認しましょう。警戒レベル3「高齢者等避難」までに、高齢者など避難に時間を要する方は危険な場所から避難しましょう。警戒レベル4「避難指示」までに危険な場所から全員避難しましょう。

Point

警戒レベル3 ▶ 避難に時間を要する方は避難

警戒レベル4 ▶ 危険な場所から全員避難

住民の避難行動

警戒レベルに応じた地域住民の行動を表に整理します。避難完了の連絡を本部や班長にするなど、必要に応じて追記や修正をしてください。

Point

住民の行動を表に整理。必要に応じて追記・修正可能

自主防災組織の防災行動

「(3) 防災活動の体制を確認しよう」で整理した組織図をもとに、各班の警戒レベルに応じた行動を整理しましょう。その際、地域の実情に合わせて、できるところから記入していきましょう。

避難者だけではなく、各班の担当者（支援者）の命も守る必要があります。そのため、警戒レベル4で担当者も安全な場所に避難するなど、支援活動を止めるタイミングも考えましょう。

様式4の活用例

各班の取り組み内容は

決定済

▶ 自由記述式に記載

検討中

▶ チェックボックス式に記載

(該当する取組口に✓を入れる。必要に応じて追記・削除を行う。)

Point

各班の「警戒レベルに応じた行動」を整理

「地域の実情」に合わせて、できるところから記入する

「支援活動を止めるタイミング」も考えておく

本 部

避難誘導班

は優先的に決めましょう

地震・防災体制の基準（本部設置のタイミング）

震度5強以上が発表された場合に自主防災組織として活動を開始するなど、震度を基準に活動のタイミングを考えましょう。基準となる震度の地震が発生した場合、タイムラインで整理した活動をもとに行いましょう。

Point 活動のタイミング ▶ 震度を基準に考える
活動は、タイムラインで整理した活動をもとに実施

平時の備え

訓練や備蓄品の点検など、災害に対する平時の取組を班ごとに整理します。資機材の点検や防災まち歩きなどを毎年実施する場合は、日程を加えておきましょう。また、住民が日ごろから備えておく取組も記載しておきましょう。

Point 平時の取り組み ▶ 訓練、備蓄品・資機材の点検、防災まち歩きなど
実施日の記載や、日頃から備えておく取組も記載

事例紹介



吹上町自主防災会
会長
高瀬 晃 氏

災害をきっかけに自主防災体制の見直し

日田市吹上町 H29年7月九州北部豪雨

Q. 災害時の行動を教えてください。

吹上町内世帯の18%（床上・床下浸水66件）で被害が出たが、自主防災組織で安否確認や避難誘導等を行い、人的被害は0だった。

Q. 災害前はどんな取り組みをしていましたか？

平成24年7月九州北部豪雨時に、自主防災組織が十分に機能しなかったため、全町内広域体制から、町内を5班に分け、各班で自己完結的に機能する防災体制とした。また、要配慮者の避難支援体制図を作り、警戒レベル3で支援を行うようにした。

Q. 災害を経験し、伝えたいことはありますか？

自主防災組織として共助の体制があっても、支援者自身が被災することもある。そのため、住民一人ひとりが自分の命は自分で守る自助の意識が大事。自助があって共助が成り立つため、自助力を高める取り組みが必要。



（豪雨后、JR久大線の橋が流された）

3 タイムラインモデル事例と訓練

モデル地区での取組事例を紹介します。なお、訓練は想定や実施日時などを工夫して、行いましょう。

災害想定	進行型災害（大雨）の避難 ▶ 避難情報等を把握し、それぞれのタイミングで避難 突発型災害（地震）の避難 ▶ 同じタイミングで一斉避難
実施時間	日中か夜間か ▶ 避難のしやすさが変わる
実施曜日	平日か週末か ▶ 支援者がいるかどうかが変わる

■ 訓練概要（共通）

- 災害想定** 線状降水帯等による豪雨災害
- ねらい** 警戒レベルに応じた自主防災組織の避難支援体制の確認
- 訓練方法** 自治体が防災ラジオや防災無線で警戒レベル1から4を順に発令し、自主防災組織は作成したタイムラインをもとに行動する。
※なお、警戒レベル4までで全員避難としているため、警戒レベル5の訓練は実施していません。

■ 事例紹介 日田市吹上町自主防災会の訓練内容

Point 自主防災組織と要配慮者が一緒に訓練に参加し、それぞれのタイムラインを確認

令和4年12月11日（日）日中実施

避難情報とそれぞれの時間別行動	9:00	9:15	10:00	10:45
	警戒レベル1発令	警戒レベル2発令	警戒レベル3発令	
	警戒レベル発令時に防災ラジオで周知			
自主防災会	役員へ集合準備の連絡	役員集合・避難受け入れ準備開始	避難者受け入れ・安否確認	
要配慮者班	公民館集合・避難の呼びかけ・避難状況確認			
Aさん 支援者:家族	各自、避難の準備	福祉施設に避難できるか確認	支援者がAさんの家に向かい2階へ避難	避難解除
Bさん 支援者:家族			支援者と車で公民館へ避難	
Cさん 支援者:家族			支援者と車で福祉施設へ避難	
Dさん 支援者:近所の人			支援者と同一敷地内隣の2階へ避難	
Eさん 支援者:家族			支援者とホテルへ避難	
Fさん 支援者:母			支援者と車で避難所へ避難	
		警戒レベル3になったら避難開始	避難後、要配慮者班へ報告	要配慮者班が班長に報告

■ 事例紹介 由布市湯平地区自主防災会の訓練内容

Point

タイムラインに沿って担当班相互の情報伝達を実施

消防団も自分の身を守るための活動終了のタイミングを決めている

令和5年2月26日(日) 日中実施

	警戒レベル	警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4	警戒レベル5
	避難情報		防災ラジオ等で注意喚起 ※状況により避難情報発令あり	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
地区の想定状況				地区の避難行動スイッチ		
担当者名	各班の活動目標					
区 長	・住民の避難状況の確認 ・消防団等との情報共有	・気象状況等の確認	・気象状況により「緊急避難伝達図」(連絡網)を発動、市と情報共有 ・避難者等の報告を受けて情報集約、消防団等と共有	・避難者等の報告を受けて情報集約し、消防団等と共有	・避難者等の報告を受けて情報集約し、消防団等と共有	
自治委員	・住民の避難状況の確認と報告	・気象状況等の確認	・区長からの連絡により連絡網を発動 ・避難者等の報告があれば区長へ連絡	・班長から避難者等の報告があれば区長へ連絡 ・避難していない住民の情報収集	・班長から避難者等の報告があれば区長へ連絡 ・避難していない住民の情報収集	⚠️ 自宅内の安全な場所へ避難
班 長	・班員の避難状況の確認と報告	・気象状況等の確認	・自治委員からの連絡により連絡網を発動 ・避難の連絡があれば自治委員へ報告	・班員から避難の連絡があれば自治委員へ報告 ・報告がない人には連絡して状況確認	・班員から避難の連絡があれば集約して自治委員へ報告 ・報告がない人には連絡して状況確認	⚠️ 2階以上に避難
消防団	・住民等への避難の呼びかけ・避難誘導	・気象状況等の確認	・区長、市等と情報共有 ・状況に応じて広報巡回	・区長、自治委員等から連絡を受け、避難していない住民の把握と避難の呼びかけ	・区長、自治委員等から連絡を受け、避難していない住民の把握と避難誘導 ※団員の安全を優先	⚠️ 地区内のより安全な場所に避難
民生委員	・要配慮者の避難促進・安否確認	・気象状況等の確認 ・電話で声かけ(1回目)	・電話で声かけ(2回目) ・避難場所等の確認	・避難しているか確認(3回目) ・区長等に情報共有	・避難の必要な人がいれば、支援者に連絡して避難誘導を依頼	
住 民	・適切な避難行動と避難状況の報告	・気象状況等の確認 ・非常持出品の確認	・避難先の確認 ・事前に安全な家族、親戚の家等に避難開始(避難する時は班長に連絡)	・避難行動開始(避難するには班長に連絡)	・風雨の状況を確認し、避難できれば避難(避難したら班長に連絡) この時点で湯平小方面県道は危険度高く注意	

※伝達図による連絡網は、電話(スマホ)やLINEでも連絡が取れるので、自分が避難しても体制は維持できます。また避難する人が多いほど消防団の避難誘導が減ります(二次災害防止)

資料は一部加工しています

地区タイムラインを活用して減災に繋げよう



大分大学
減災・復興デザイン
教育研究センター
防災コーディネーター
板井 幸則氏

大分県では、自主防災組織率が97%(令和4年4月1日)と非常に高い組織率となっています。しかしながら、組織は毎年のように役員も変わり、何をしてもよいか解らないというのが地域の現状でした。

そのような事から、今年度大分県が中心となり「地区タイムラインモデル検証事業」を立ち上げ、県内3地区をモデル地区として検証を行いました。これまで活動の開始が解り難かった各対策班の活動を、警戒レベルに合わせて明記したことで、また、災害発生前から地域の要配慮者や避難行動要支援者などを早めに避難させ、地域から逃げ遅れがないように訓練等を実施することでスムーズな活動体制を構築することができました。

これからは、災害から地域住民の「安全安心を守るため」に、今回の地区タイムラインを有効に活用して頂き、災害発生前から各対策班が活動できる体制を整え、皆さんの力で地域を減災に導いて頂ければと思います。

「ユイ（結）・タイムライン」を作ってみて

白杵市目明区



目明区自主防災会

会長

相澤 利一 氏



Q. 地域内で起きた災害と防災の取り組みについて教えてください。

平成 18 年 9 月に竜巻が発生し地区内でも被害が出た。当時、自主防災組織はなく、自治会役員だけで対応した。その竜巻被害をきっかけに、住民の防災意識が向上し、自主防災組織を結成することになった。

Q. タイムラインを作るきっかけはなんでしたか？

自主防災組織結成後、南海トラフ巨大地震への備えのため、地震を想定した避難訓練を行っていた。その避難訓練を通じて、地震の規模に応じた各班の動きを表に整理し、役員に配布した。

また、最近は毎年のように風水害が発生しているため、風水害時の初動行動も作成した。

Q. ユイ・タイムラインを作ってみていかがでしたか？

今回、自主防災組織の防災意識向上を目的に、ユイ・タイムラインを作成することにした。時系列に沿って班ごとの防災行動を整理することで、自主防災組織の役員が、活動内容をより理解できるようになると思う。

また、タイムラインを検討する中で、消防団との連携や班の行動内容の見直しが必要など、気づきがたくさんあった。

Q. モデル事業を行った感想をお願いします。

今後、ユイ・タイムラインと個別避難計画の内容を擦り合わせていくことで、よりよい体制ができると思う。

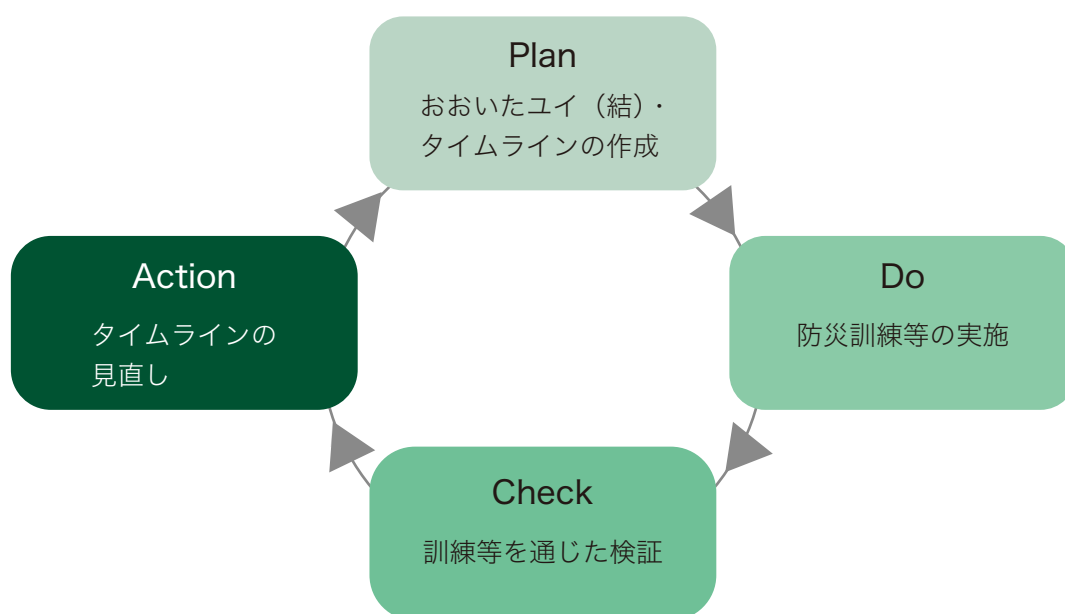
人口が減少し、高齢化が進むなかで、地域の実情にあわせて、班を統廃合するなど、自主防災組織の体制を見直していく必要があると感じている。

4 訓練による検証とタイムラインの見直し

おおいたユイ（結）・タイムラインは作成して終わりではありません。災害時に適切な避難行動や防災活動ができるか、防災訓練等を通じた検証を行い、課題があればタイムラインの内容を見直し、より地域の実態に即した計画にしていけることが重要です。

平時から1年に1回以上は、防災訓練や備蓄品・資機材の点検、防災学習などの活動を行い、タイムラインの見直しをしてください。地域住民の「顔の見える関係」が構築でき、地域コミュニティの活性化にもつながることが期待できます。

Point 作成 (P)、訓練 (D)、検証 (C)、見直し (A) のサイクルを回しましょう！



■ おおいたユイ（結）・タイムライン作成後

手順 1 様式 1～4 をセットにして地域住民に周知

手順 2 おおいたユイ（結）・タイムラインをもとにした防災訓練などを実施

手順 3 訓練等を通じた検証

手順 4 おおいたユイ（結）・タイムラインを見直し、修正したタイムラインを地域住民に周知



■ 参考

県では、地域の防災訓練や防災学習会に消防OBなど防災の専門家を派遣する「防災アドバイザー派遣事業」を実施しています。地域での防災活動にご活用ください。

大分県防災アドバイザー 検索

■ 防災情報収集ツールを知ろう (使い方等は各ツールにてご確認ください。)

おおいた防災アプリ

大分県

スマートフォン向けのアプリです。

- ・マイ・タイムライン作成機能
- ・各種ハザードマップ
- ・道路や河川のライブカメラ映像
- ・周辺の避難所検索 等
- ・家族グループ機能
- ・気象警報や避難情報

※アプリのインストールが必要



県民安全・安心メール

大分県

気象警報や避難情報が電子メールで届きます。

- ・大雨や洪水などの気象警報
- ・自治体からの避難情報

※メールの登録作業が必要



ハザードマップポータルサイト

国土地理院

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴などを地図や写真に自由に重ねて表示できるWeb サイトです。



市町村ハザードマップ

お住まいの市町村ホームページからご覧ください。

キキクル

気象庁

雨による災害の危険度を5段階で色分けして地図上にリアルタイム表示するもの。

3つの災害（土砂災害、浸水害、洪水害）の危険度の高まりを確認することができます。



大分県災害データアーカイブ

NHK 大分放送局

大分大学減災・復興デザイン
教育研究センター（CERD）

大分県内で起きた過去の災害についてのデータベースです。過去に「どのような」災害が起き、「どこで」被害が発生したか、およそ1300年間の記録をまとめています。



参考文献

国土交通省	タイムライン(防災行動計画)策定・活用指針(初版)	https://www.mlit.go.jp/river/bo-usai/timeline/pdf/timeline_shishin.pdf
京都府	水害等避難行動タイムラインの作成について	https://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/suigaihinan-timeline.html
熊本県	作ってみよう地区防災計画	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/4/77584.html
北海道滝川市	水害コミュニティタイムライン	https://www.city.takikawa.hokkaido.jp/200soumubu/02bousai/files/komyu-manyu.pdf
矢守克也	避難スイッチ	防災心理学入門 豪雨・地震・津波に備える,京都,ナカニシヤ出版 2021,P.14-15



この手引書に関する問い合わせ先

大分県生活環境部防災局防災対策企画課防災推進班

T E L 097-506-3155 (直通)

F A X 097-533-0930

編 集 協 力 NPO 法人リエラ

発 行 者 大分県生活環境部防災局防災対策企画課

〒870-8501 大分県大分市大手町3丁目1-1

発 行 日 令和5年3月発行